

1. **PERSON** B.C. 5・4世紀、ギリシアの哲学者でソクラテスの弟子。理想主義的哲学。 1
2. **BOOK** 師ソクラテスを主人公に、対話形式で書かれたプラトンの代表的著作。 2
3. プラトンがアテネ郊外に設立した学園。語源：英語の academy 「学園」の語源 3
4. プラトン哲学の「理性によって認識される真の实在」。語源：英語の ideal 「理想」の語源 4
5. プラトンに代表される、最高の完成性（理想）を究極的価値として追求する人生観や世界観。関連語：現実主義 5
6. 二つの相互に独立する根本的な原理で世界や事象を、説明する立場。 6
7. プラトンが、イデア界を太陽の光に照らされた外の世界に、現象界を暗い洞窟にたとえた比喻。 7
8. 想起説の根拠。現実界でイデアを忘れていたが、美や善を経験することによりイデアを想起して恋慕する「知への愛」。関連語：フィーリア、アガペー、慈悲、仁 8
9. 魂がかつて住んでいたイデア界（天上の故郷）を憧れ、肉体という牢獄に閉じこめられている間はイデアを恋慕するという考え方。 9
10. プラトンが最高のイデアとしたもの。 10
11. プラトンが「理性（頭部）・気概（胸部）・欲望（腹部）」というように、身体の一部と人間の魂「知・情・意」を関連させて説いた考え方。 11
12. プラトンが「知恵（頭部）・勇氣（胸部）・節制（腹部）」に加えて、その三つの徳を制御する徳として正義を挙げた考え方。関連：キリスト教三元徳（信仰・希望・愛） 12
13. プラトンの四元徳の一つで、統治者に求められる徳。頭部にあたる。 13
14. プラトンの四元徳の一つで、軍人に求められる徳。胸部にあたる。 14
15. プラトンの四元徳の一つで、生産者に求められる徳。腹部にあたる。 15
16. プラトンの四元徳の一つで、「知恵・勇氣・節制」に加えて、その三つの徳を制御するものとして挙げた徳。 16
17. プラトンが主著『国家論』で述べた、「哲学者が統治するか、統治者が哲学を学ぶか」とした考え方。民主政を批判している。 17
18. プラトンが哲人政治を主張した著書。 18

T.Q. 「プラトンの二元論哲学の内容とは？」

T.A.

イデア論の中でプラトンは真實在のイデア界と不完全な現象界を対比させ、人間は肉体に閉じこめられた囚人だと言った。そのため、「私たちの魂はかつてそこに存在した故郷のイデア界を想起し恋慕する」としてエロース（知への愛）を説いた。また、このエロースの最終的到達地点は、善のイデアである。